

令和8年度

教養教育ガイド

2026

Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

目 次

令和8年度（2026年度）カレンダー	1
はじめに	3
I 富山大学における教養教育の教育方針	4
1 教養教育の目的	4
2 どんな科目を学ぶのか？	4
3 学修の方法と評価	5
II 教養教育における授業の仕組み	6
1 学年・学期・授業時間	6
2 単位・卒業要件単位	6
3 科目の種類	7
4 成績	7
5 シラバス	8
6 ヘルン・システム（富山大学 学務情報システム）	9
7 教員免許状取得に必要な教養教育科目	9
III 履修登録	10
1 履修計画	10
2 年次・学期ごとの履修上限単位数（CAP制）	10
3 履修登録の日程	11
4 教養教育科目の履修登録	11
5 履修登録の手順	14
IV 履修上の注意	16
1 教室	16
2 出欠管理システム	16
3 欠席等の取扱い	16
4 授業に関する諸連絡（休講・補講・試験等）	17
5 レポートの提出	17
6 「健康・スポーツ実践」履修上の注意	18
V 単位認定	19
1 試験	19
2 不正行為	19
3 追試験	20
4 成績評価の確認	21
5 不可となった科目の取扱い	21
6 既修得単位等の認定	22
VI 各学部・学科における卒業要件単位一覧	24
VII 令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧	36
VIII 関係規則	42
1 富山大学教養教育履修規則	42
2 富山大学教養教育追試験内規	43
3 富山大学教養教育再履修内規	45
4 富山大学教養教育再試験内規	46
IX 教養教育に関するQ&A	47
X マップ	49
1 共通教育棟マップ	49
2 教養教育で使用する各学部棟の情報端末室配置図	50
XI 各種担当窓口一覧	52
令和8年度履修登録における各学部・学科の「履修を指定する科目区分」「選択できる科目数」	53
令和8年度教養教育科目履修計画表	55

令和8年度（2026年度）カレンダー

〔クォーター制〕

学期・月	日	月	火	水	木	金	土	
第1ターム	4			1	2	3	4	
		5	6	7	入學式	9	①10	11
		12	①13	①14	①15	①16	②17	18
		19	②20	②21	②22	②23	③24	25
		26	③27	③28	29	水③30		
	5						④1	2
		3	4	5	6	③7	⑤8	9
		10	④11	④12	④13	④14	⑥15	16
		17	⑤18	⑤19	⑤20	⑤21	⑦22	23
		24	⑥25	⑥26	⑥27	⑥28	⑧29	30
	31							
	6		⑦1	⑦2	⑦3	⑦4	5	6
7		⑧8	⑧9	⑧10	⑧11	①12	13	
14		①15	①16	①17	①18	②19	20	
21		②22	②23	②24	②25	③26	27	
28	③29	③30						
第2ターム	7			③1	③2	④3	4	
		5	④6	④7	④8	④9	⑤10	11
		12	⑤13	⑤14	⑤15	⑤16	⑥17	18
		19	20	⑥21	⑥22	⑥23	月⑥24	25
		26	⑦27	⑦28	⑦29	⑦30	⑦31	
夏季休業	8						1	
		2	⑧3	⑧4	⑧5	⑧6	⑧7	8
		9	10	11	12	13	14	15
		16	17	18	19	20	21	22
		23	24	25	26	27	28	29
30	31							
9			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				

学期・月	日	月	火	水	木	金	土	
第3ターム	10				△	①2	3	
		4	①5	①6	①7	①8	②9	10
		11	12	②13	②14	月②15	③16	17
		18	③19	③20	③21	②22	④23	24
		25	④26	④27	④28	③29	⑤30	31
	11	1	⑤2	3	⑤4	④5	6	7
		8	⑥9	⑤10	⑥11	⑤12	⑥13	14
		15	⑦16	⑥17	⑦18	⑥19	⑦20	21
		22	23	⑦24	25	⑦26	⑧27	28
		29	⑧30					
	12			⑧1	⑧2	⑧3	①4	5
		6	①7	①8	①9	①10	②11	12
13		②14	②15	②16	②17	③18	19	
20		③21	③22	③23	③24	④25	26	
27	28	29	30	31				
第4ターム	1					1	2	
		3	④4	④5	④6	④7	⑤8	9
		10	11	⑤12	⑤13	⑤14	◇	16
		17	⑤18	⑥19	⑥20	⑥21	⑥22	23
		24	⑥25	⑦26	⑦27	⑦28	⑦29	30
31								
2		⑦1	⑧2	⑧3	⑧4	⑧5	6	
	7	⑧8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
28								
春季休業	3		1	2	3	4	5	
		7	8	9	10	11	12	13
		14	15	16	17	18	19	20
		21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31					

4/30は水曜日の授業を行う。
7/24は月曜日の授業を行う。

10/15は月曜日の授業を行う。

授業期間
授業・補講・試験
予備・調整日(休講日であるが、試験や補講を行うことがある。)
夏季一斉休業、年末年始休業

△:開学記念日
◇:大学入学共通テスト準備のため1日休講

はじめに

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。大学生活を始めるにあたり、希望に満ちている方もいるかもしれませんが、一抹の不安を感じている方もいるかもしれません。中には、自分の好きな専門を極めたいと意欲に燃えている方もいるかもしれませんが、本学では1年次は全ての学生が教養教育を学ぶことになっております。がっかりした人もいるかもしれませんが、なぜ教養教育が必要なのか少しお話ししたいと思います。

例えば理工系の学生で、将来はエンジニアになりたいと思っている方がいるとします。もちろん理系の知識や考え方は必要ですが、その道で仕事をしていく上では、社会や経済の動向を察知したり、法規にもとづいて検討したりする必要があるかもしれませんし、国際的に技術的な説明を求められるかもしれません。また、モノづくりには人々に受け入れられやすいデザインが必要です。一方で社会学や人文学で社会に貢献したいと思っている方がいるとします。もちろん法学や経済学や言語学、文学といったそれぞれの専門知識や理解は必須ですが、例えば環境問題やエネルギー問題の知識、さらには世の中に説明するために統計学的な知識や思考が必要になることはあると思います。こういったことは他の学問分野でも同様です。これからの日本の社会は、人口が減少し、高齢化が進むことは間違いありませんので、それを乗り越えていくためには、チームを作りそれぞれが相補的に力を合わせ、さらには相乗的な効果を生み出すことが必要になってくると思います。そのとき重要になるのは、異分野の意見や状況を客観的に理解し全体を俯瞰できる力だと思います。もちろん、データサイエンスを駆使して解を導いたり、AIを利用して人間の仕事を補完したりすることは、今後ますます社会生活の中にも浸透してくると思いますので、こういった分野は、文系理系を問わず必要になってくる教養だと思います。

上記のように、教養教育の必要性を少し説明いたしました。本学の教養教育は今年度から刷新され、初めに全員が受講する導入学修が設けられました。ここでは、大学で学ぶための基礎知識や心構えを自分なりに習得していただきたいと思います。また、導入学修やその他の授業で、グループワークが行われることがあります。これについては、前述したように、皆さんが社会に出て、チームとして仕事を進めるときに役立つように計画されておりますので、是非、積極的に議論に参加して、異なる意見を理解したり、全体の共通部分をまとめたり能動的に行ってください。

将来、皆さんが希望した職業に就いたとしても、また意に叶った企業に就職できたとしても、世の中は中長期的には大きく変わっていきますし、皆さん各自のポジションやそれに付随した役割も変化していきます。したがって、その変化の中で自身の能力を発揮し、居場所を見つけるためには、周囲の人々と協力して信頼を得ながら新しい課題を解決していくことが必要です。大学は、卒業することが目的ではありません。広い世界に飛び立って、広い世界を俯瞰しながら、皆と連携して大空を飛び回るための滑走路です。

なお、本ガイドを読んでわからない点や疑問点があれば、学務課教養教育支援室または所属学部の教務担当窓口を訪ねてください。また、本学では教養教育に関する情報を教養教育院のウェブサイトで公開しているほか、在学生を対象としたスマートフォン用アプリケーション「とみだい iNfo」でも情報発信していますので、併せて活用していただければ幸いです。

令和8年3月 教養教育院長

I 富山大学における教養教育の教育方針

教養教育について ～大学での学びの土台をつくる～

大学での学びは、専門分野の知識だけではありません。多角的に物事を捉え、適切に判断するための幅広い教養を培うことが重要です。みなさんが社会に出たときに、多様な答えがありうる問いに向き合い、自立して生きていくための「知の土台」が必要です。

教養教育院では、地域社会および国際社会において活躍できる、豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材の育成を目指します。そして、学修の基礎となる幅広い知性・知恵・実践的能力を形成し本源的公共性・市民的公共性・社会的公共性を身に付けるために、以下のようなカリキュラム体系を構築しています。

1 教養教育の目的

教養教育が目指すのは、「人が自立し、社会との関わりの中で生きていく上で必要になる知性」を養うことです。そのために、正しい判断を行うための多角的なものの見方、価値観の形成につながる総合的な力、多様な課題に対して柔軟に対応する力、そして生涯にわたって学び続ける知への探究心を育てます。

2 どんな科目を学ぶのか？

教養教育は、大きく分けて5つのカテゴリーで構成されています。

○ 基盤となる能力を養う（共通基礎科目・選択基礎科目）

今日の社会で必要不可欠になっている能力や大学での学修の基礎を修得します。富山大学の学生として修得すべき事項の基礎を学び、分野別科目や統合科目の履修に必要となるリテラシーを修得します。

- **情報化社会への対応**：AIやデータサイエンスの基礎、プログラミング、情報倫理を学びます。数学・統計、プログラミングやデータ活用の基礎を学び、デジタル社会に対応する力を身につけます。
- **国際化社会への対応**：英語の運用能力を高めるとともに、多文化共生や異文化への理解を深め、グローバル社会で通用するコミュニケーション力を養います。
- **社会的変化への対応**：社会の変化を捉える力、批判的思考、チームで動くための調整力、心身の健康管理など、自立した市民としての基礎力を磨きます。

○ 多様な知に触れ、問いを立てる（分野別科目）

幅広い知識と多様な視点を獲得し、論理的思考力と自ら問いを立てる力を養います。

- **自然科学分野**：自然界の仕組みを理解し、科学的根拠に基づいた論理的思考力を養います。
- **社会科学分野**：社会の仕組みや歴史を理解し、批判的・論理的な思考力を養います。
- **人文科学分野**：人間の文化や思想、歴史を理解し、創造的な思考力を養います。

○ 知をつなぎ合わせる（統合科目）

分野別に学んだ知識を関連付け、知識を統合することを学びます。多様な見方があることを知り、複雑な課題を解決したり新たな価値を創造したりするための「統合知」を学びます。

○ 視野をさらに広げる（高年次教養科目 ※ 2年次以降）

専門の学びが進んだ後に、異分野の学生との交流などを通して、複眼的・俯瞰的視点を修得し、学際的な広い視野を身につけます。

○ 専門の基礎を固める（理系基盤科目）

専門分野の学修に必要な基礎知識を修得し、学部への学びにつなげます。

3 学修の方法と評価

（1）授業の形態

講義を聴くだけでなく、グループワークやディスカッションを行うアクティブ・ラーニング型授業、ICTを活用した授業、少人数での演習、フィールドワークなど、皆さんが主体的に参加できる授業を数多く用意し、さまざまな授業形態を通して理解を深めます。

（2）学修成果の評価

成績評価の基準・方法は、あらかじめシラバス（授業計画）等で明確に示します。各授業のシラバスをよく確認してください。成績はテストの点数だけでなく、授業への取り組み方やレポートなど、科目の特性に応じた多角的な視点で評価されます。

【参考】富山大学学士課程の教育方針

- （1）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
- （2）教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）
- （3）入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

これらについては、以下のリンクを参照してください。

<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/3policy/policy/faculty/>



Ⅱ 教養教育における授業の仕組み

1 学年・学期・授業時間

(1) 学年

学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。

(2) 学期

4月1日から9月30日までが前学期、10月1日から翌年3月31日までが後学期としますが、教養教育は、1学年を4分割するクォーター制で実施し、前学期の前半を第1ターム、後半を第2ターム、後学期の前半を第3ターム、後半を第4タームとします。一部の科目を除き、8週の授業を行います。
※タームを「Q」と表記する場合（Moodle）があります。

(3) 授業時間

授業は1回の授業時間（1時限）当たり90分で行います。時限ごとの授業時刻は次のとおりです。

時 限	時 間
1時限	8：45～10：15
2時限	10：30～12：00
3時限	13：00～14：30
4時限	14：45～16：15
5時限	16：30～18：00

2 単位・卒業要件単位

大学での学修では「単位」という尺度を使い授業科目が設定されています。成績が合格と判定されると設定された単位が与えられます。

(1) 単位

1単位は、大学で授業を行う時間並びに学生が事前学修及び事後学修を行う時間の合計45時間をもって構成されます。授業の種類・方法ごとの学修時間等は以下のとおりです。2単位の講義科目の場合、授業時間30時間、授業時間外の学修時間60時間、計90時間をもって2単位修得することとなります。

授業の種類・方法

授業の種類・方法	大学での授業時間	授業時間外の学修時間
講義, 演習	15～30時間	30～15時間
実験, 実習, 実技	30～45時間	15～0時間

(2) 教養教育における卒業要件単位

富山大学を卒業するには、「富山大学教養教育履修規則」第7条の規定により、学部・学科ごとに定められた卒業要件単位を修得しなければなりません。単に修得単位の合計数が卒業要件単位を超えていればよいというものではなく、「各区分の選択科目の必要単位は修得しているか」など、自身が所属する学部・学科が指定する卒業要件を十分に確認してください。

学部・学科における卒業要件単位一覧及び令和8年度教養教育開設授業科目一覧については、P24～P41「各学部・学科における卒業要件単位一覧」及び「令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧」に掲載しています。

3 科目の種類

科目には、「必修科目」、「選択科目」、「自由科目」の3種類があります。「必修科目」、「選択科目」については、学部や学科、専攻（コース）ごとに卒業に必要な単位数を定めています。

(1) 必修科目

「必修科目」とは、卒業要件として必ず単位を修得しなければならない科目です。学部・学科によって「必修科目」の指定は異なりますので、自身が所属する学部・学科の「必修科目」を確認し、必ず単位を修得してください。

(2) 選択科目

「選択科目」とは、履修目的に応じて選択することができる授業科目です。自身の卒業要件単位を確認し、必要とされる修得単位数が不足しないよう注意して科目を選択してください。

(3) 自由科目

「自由科目」とは、単位は修得できますが、卒業要件単位には算入されない科目です。「自由科目」として履修可能な教養教育科目は学部・学科ごとに定められています。

4 成績

(1) 成績の評価

成績の評価は、原則として、1タームあたり8週の授業を履修した後、授業担当教員が授業における学修態度、レポートや試験等に基づき総合的に判定を行います。成績は「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格、「不可」を不合格とし、合格した科目には単位が与えられます。

なお、教養教育科目では、富山大学 GPA 制度に関する規則を受け、成績評価分布目標を次のとおり定めています。

区分	成績評価分布の目標 (令和4年4月1日施行)
教養教育科目	「秀」は履修者の10%以内を目安とする。 ただし、履修者が20人以下の授業科目については、「秀」の目安とする割合を可能な限り準用する。また同一教員のクラスや同一科目名複数コマ開講クラス、習熟度別編成で行っている同一科目の授業は、複数クラス全体で目安とする割合を準用することがある。

(2) GPA (グレード・ポイント・アベレージ)

富山大学では、GPA制度（GPA：履修科目の成績の平均値）を導入しています。

成績評価を下表のGP（グレード・ポイント）の数値に換算し、学期GPA、学年GPA及び累積GPAを算出します。このうち、学年GPAと累積GPAを各学年の成績通知書に記載します。各GPAの算出方法は以下のとおりです。

$$(i) \text{ 学期GPA} = \frac{(\text{当該学期の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目総単位数}}$$

$$(ii) \text{ 学年GPA} = \frac{(\text{当該学年の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{当該学年の履修科目総単位数}}$$

$$(iii) \text{ 累積GPA} = \frac{(\text{在学期間中の履修科目単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{在学期間中の履修科目総単位数}}$$

※履修登録科目の確認を怠り、履修しない授業科目が履修登録されている場合や、履修取消の手続きを行わず受講しなかった場合の成績は「不可」となり、GPAに算入されるので注意してください。なお、「不可」となった場合、同一科目を再履修し単位を修得することで累積GPAの対象外とすることができます。（ただし、学期GPA及び学年GPAには算入されたままです。）

成績の評語に対する評価基準及びGPの対応表

成績の評語	GP	評価基準
秀 (S)	4	到達目標を達成し、極めて優秀な成績を修めている
優 (A)	3	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている
良 (B)	2	到達目標を達成し、良好な成績を修めている
可 (C)	1	到達目標を達成している
不可 (D)	0	到達目標を達成していない

「認」、「合格」及び「不合格」をもって評価される授業科目は、GPA算出の対象外とします。

5 シラバス

授業科目ごとに、担当教員名や授業計画、成績評価方法、使用する教科書、履修上の注意などを詳しく紹介したものをシラバスと言います。シラバスは富山大学ウェブサイト「富山大学ウェブシラバス」又はヘルン・システムから参照することができます。

なお、ウェブシラバスでは、一部表示されない項目があります。担当教員の連絡先等を参照したい場合は、ヘルン・システムのシラバスで確認してください。

自分が履修しようとする教養教育科目のシラバスをよく読み、履修計画を立ててください。

◆ 富山大学ウェブシラバス

<https://www.new-syllabus.adm.u-toyama.ac.jp/>



6 ヘルン・システム（富山大学 学務情報システム）

ヘルン・システムとは、富山大学の学生、教職員が利用できるウェブシステムです。

ヘルン・システムでは、履修登録や成績照会を行うだけでなく、休講・補講情報、シラバス、就職関連情報など、教養教育に限らず、様々な情報を管理・発信しています。キャンパスガイドに「ヘルン・システム利用の手引き」を掲載していますので、内容をよく読んで利用してください。

◆ ヘルン・システム

<https://www.u-toyama.ac.jp/studentsupport/course/hearn-system/>



7 教員免許状取得に必要な教養教育科目

教職課程を有する学部・学科又は医学部看護学科に所属し、教員免許状の取得を希望する学生は、以下の教養教育科目の単位を修得する必要があります。教員免許状取得に関する詳細は、ガイダンス等で確認してください。

教員免許状取得に必要な教養教育科目一覧

	区分	科目名	
基礎科目	「情報化社会への対応（共通）」	学術情報リテラシーⅠ・Ⅱ	から 2単位
	「国際化社会への対応（共通）」	E S P Ⅰ（Level-based）・Ⅱ（Interest-based）	
	「国際化社会への対応（選択）」	ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 朝鮮語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ロシア語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ（外国人留学生限定）	
	「社会的変化への対応（選択）」	健康・スポーツ論 健康・スポーツ実践	
分野別科目	「社会科学」	日本国憲法Ⅰ・Ⅱ	

Ⅲ 履修登録

所属する学部の卒業要件を把握した上で履修計画を作成し、履修計画に基づき履修登録を行います。

1 履修計画

大学では、学生自身が履修する授業科目を選択し、履修計画を立てることになります。

必修科目等一部の科目を除き、自由に授業科目が選べる一方、自己責任・自己管理が一層重要となります。

○ 履修計画を立てるためのポイント

- ① 教養教育の卒業要件単位（P24～「各学部・学科における卒業要件単位一覧」を参照）は、1年次で修得することが原則です。2年次以降は専門科目の授業が中心となります。その際、教養教育科目の修得単位が不足していると履修科目数が増え、自身にとって大きな負担となります。
- ② 必修科目は必ず履修してください。
- ③ 自身が所属する学部・学科の卒業要件単位を把握し、履修する選択科目を決めてください。
- ④ シラバスをよく読み、授業内容等を十分理解した上で、履修する選択科目を決めてください。
- ⑤ 教員免許状取得を希望する場合は、P9「教員免許状取得に必要な教養教育科目」を必ず履修してください。
- ⑥ 学部・学科によっては、教養教育科目の修得単位数を進級要件としています。
自身が所属する学部・学科の進級要件を確認し、教養教育科目の修得単位数が不足しないように注意してください。

2 年次・学期ごとの履修上限単位数（CAP制）

履修できる科目の合計単位数には、年次・学期ごとに上限を設けています。これは、履修できる授業科目数を制限することで適切な学修時間を確保し、学修内容を深く身に付けることを目的としています。年次・学期ごとの上限単位数は、自身が所属する学部・学科で確認してください。

3 履修登録の日程

令和8年度日程（令和8年度入学生）

第1・2ターム		第3・4ターム	
3月下旬～	教養教育オリエンテーション (動画配信)	8月下旬～	履修登録オリエンテーション (資料・動画配信)
4月3日(金) ～4日(土)	教養教育科目履修登録 (第1・2ターム開講科目)	9月7日(月) ～9日(水)	教養教育科目履修登録 (第3・4ターム開講科目)
4月8日(水)	抽選結果・追加登録科目発表	9月11日(金)	抽選結果・追加登録科目発表
4月9日(木)	教養教育科目追加登録 (第1・2ターム開講科目)	9月15日(火) ～17日(木)	教養教育科目追加登録 (第3・4ターム開講科目)
4月10日(金) ～23日(木)	教養教育科目履修取消期間 (第1・2ターム開講科目)	10月2日(金) ～15日(木)	教養教育科目履修取消期間 (第3・4ターム開講科目)
5月11日(月) ～15日(金)	教養教育科目追加登録期間 (第2ターム開講科目)	10月26日(月) ～30日(金)	教養教育科目追加登録期間 (第4ターム開講科目)
6月12日(金) ～25日(木)	教養教育科目履修取消期間 (第2ターム開講科目)	12月4日(金) ～17日(木)	教養教育科目履修取消期間 (第4ターム開講科目)
7月1日(水)	第1ターム成績発表	12月23日(水)	第3ターム成績発表
9月1日(火)	第2ターム成績発表	3月8日(月)	第4ターム成績発表

※詳細は、オリエンテーション資料・動画を参照してください。
また、上記日程に変更が生じた場合は、学生掲示等にて通知します。

4 教養教育科目の履修登録

授業科目を履修するためには、学生自身が学務情報システム（以下、ヘルン・システムという。）を利用して、指定された教養教育履修登録期間内に履修登録を行う必要があります。指定された期間外に履修登録はできません。「各学部・学科における卒業要件単位一覧」及び「令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧」において、自身の所属学部・学科の卒業要件単位をよく確認し、登録忘れや登録間違いがないよう注意してください。

(1) 必修科目・クラス指定科目の履修登録

教養教育科目のクラス指定科目及び必修科目【英語科目（例：ESP I（Level-based））、初修外国語科目（例：ドイツ語基礎I）、体育科目（例：健康・スポーツ実践）、情報科目（例：学術情報リテラシーI）、導入学修科目（例：導入学修A）、等】については、あらかじめ履修登録されています。新入生オリエンテーション時に配付する「履修登録確認表」やヘルン・システムの履修登録画面で確認してください。

① 英語科目の履修登録

ESP I、基盤英語I・IIはあらかじめ履修登録してあります。ESP IIはテーマ別クラスのため、7月上旬に履修科目の希望調査を行い、クラスを決定します。詳細は別途、お知らせします。

また、英語科目の履修に当たって、自身の英語力が英語科目の習熟度レベルを超えている英語圏出身の外国人留学生等や、日本の高校レベルの英語教育を受けていないなどの場合は、履修登録期間中のなるべく早い時期に教養教育支援室に相談してください。

② 体育科目の履修登録

第1・2ターム開講の「健康・スポーツ実践」については、クラス指定科目のため、必修科目ではない学部・学科においてもあらかじめ履修登録してあります。必修科目ではない学部・学科の学生で「健康・スポーツ実践」の履修を希望しない学生は、履修登録期間中に必ず教養教育支援室にその旨を申し出てください。

ただし、薬学部については、「健康・スポーツ実践」を履修登録してありませんので、履修を希望する場合は、自身で履修登録してください。その場合、薬学部学生の履修曜限は、木曜3限です。

第3ターム開講の「健康・スポーツ論」については、必修科目とする学部のみクラス指定科目としてあらかじめ履修登録してあります。必修とする学部以外の学生で、教員免許状取得等のため、「健康・スポーツ論」の履修を希望する学生は、履修登録期間中に各自で履修登録してください。

○ 「健康・スポーツ実践」の種目の選択について

指定された曜限に開講される種目から、履修する種目を1種目選択します。種目選択を行うため、第1週目は五福キャンパス第1体育館に集合してください。第1週の授業に出席しなかった場合、希望する種目を選択できないことがあります。履修する種目が決定した後の履修登録は、教養教育支援室の事務担当が行います。ヘルン・システムで改めて履修登録内容を確認してください。

○ 「特別体育」の履修登録について

様々な理由により、集団での運動・スポーツ活動が困難な学生を対象として、通常の学生が履修する「健康・スポーツ実践」とは別に、「特別体育」を開講します。「特別体育」は、原則として個別指導としており、授業内容、開講時間等を授業担当教員と相談の上、履修の可否を決定します。「特別体育」の履修を希望する学生は、第1週の授業時間中に授業担当教員に申し出るか、教養教育支援室に申し出てください。

③ 「物理学Ⅰ・Ⅱ」の履修登録（医学部医学科及び薬学部のみ対象）

医学部医学科及び薬学部の学生は、「物理学Ⅰ」及び「物理学Ⅱ」の2科目について、履修クラス（AまたはB）を選択することが可能です。「物理学Ⅰ・Ⅱ（A）」があらかじめ履修登録されているので、「物理学Ⅰ・Ⅱ（B）」へ変更を希望する場合は、変更手続きを行ってください。履修クラスの変更方法の詳細は授業中に指示します。

④ 英語以外の外国語（初修外国語）履修登録

初修外国語（「多言語世界入門」含む）は、入学手続の際の希望調査を基に、あらかじめ履修登録されています。

なお、各言語については、以下のサイトを参照してください。

◆ 初修外国語特設サイト

<https://www.isc.u-toyama.ac.jp/language/>



○ 留意事項

- ・第1・2タームの開講科目を履修せず、第3・4タームの「基礎Ⅱ」,「コミュニケーションⅡ」から履修するような履修計画は避けてください。段階的に学んでいくことが基本です。
- ・原則として、高校などで学修経験のある言語、或いはその言語圏で長期間の生活経験のある場合などは、選択することができません。

(2) 選択科目の履修登録

各学部・学科における卒業要件単位に基づいて、定められた系の科目を卒業要件単位まで修得しなければなりません。

○ 留意事項

- ・自身が所属する学部・学科の卒業要件単位をしっかりと把握した上で、履修する選択科目を決めてください。
- ・授業科目名だけで判断せず、シラバスをよく読み、授業内容等を十分理解した上で、履修する選択科目を決めてください。
- ・同じ科目名称の教養教育科目は、サブタイトル、授業内容、担当教員名が違っていても重複登録することはできません。ただし、単位が欠落した場合は、同じ名称の科目を再度履修することができます。
- ・初回（第1・2ターム開講科目：4月3日～4日、第3・4ターム開講科目：9月7日～9日）の履修登録では、各学部・学科の「履修を指定する科目区分」,「選択できる科目数」(P53～54参照)を超えて、履修登録することはできません。
- ・追加登録（第1・2ターム開講科目：4月9日、第3・4ターム開講科目：9月15日～17日）では、「履修を指定する科目区分」,「選択できる科目数」にかかわらず、履修登録することが可能です。ただし、学部・学科で定めたCAPの上限までとなります。
- ・選択科目では、授業科目ごとに定員を定めています。教養教育履修登録期間終了後、定員を上回る履修希望者がいる教養教育科目は、抽選を行い、履修者を決定します。抽選の結果、履修が認められなかった場合は、抽選結果発表日にヘルン・システム>時間割の画面において、科目が削除されています。
- ・選択科目の抽選の結果、受け入れ人数に余裕のある授業科目については、追加登録期間に先着順で追加募集を行います。詳細は、Moodle等で通知します。追加登録期間外では履修登録はできませんので、掲示の確認を怠らないようにしてください。
- ・自由科目は、卒業要件単位となりません。

(3) 集中講義の履修登録

集中講義は主として休業期間中（夏季、冬季休業期間、土日）に開講します。集中講義の履修登録方法及び開講時期については、ヘルン・システム及びMoodle等で通知します。

(4) 外国人留学生の履修登録

① 外国人留学生を対象とした教養教育科目

教養教育科目では、外国人留学生のための教養教育科目として、以下の科目を開設しています。外国人留学生以外の学生は履修することはできません。

外国人留学生を対象とした教養教育科目一覧

区分	教養教育科目名
国際化社会への対応（選択）	日本語アカデミックスキルⅠ・Ⅱ 日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 異文化理解A・B

② 外国語の履修登録

外国人留学生の外国語履修登録は、英語の他、初修外国語としてドイツ語、中国語、フランス語、ロシア語、朝鮮語、日本語から言語を選択します。ただし、母語を選択することはできません（大学が母語を指定することがあります）。例えば、中国語圏出身者は、中国語を除く5言語から初修外国語を選択することになります。また、日本語を母語とする学生は、たとえ外国人留学生であっても日本語を選択することはできません。

なお、工学部に所属する外国人留学生は、日本語アカデミックスキルⅠ・Ⅱ及び日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱが必修科目として指定されています。

5 履修登録の手順

(1) 履修計画の作成

富山大学では、教養教育科目の卒業要件単位を1年次ですべて修得することを強く推奨しています。1年間で卒業要件単位を充足するよう、余裕を持った履修計画を立てましょう。

(i) クラス指定科目の確認

自分の受講するクラス指定科目（ESPⅠ、基盤英語Ⅰ、健康・スポーツ実践、学術情報リテラシーⅠ・Ⅱ、初修外国語）、必修科目の曜日・時限を確認します。

(ii) 選択科目の検討

(i) で確認したクラス指定科目、必修科目を受講する曜日・時限以外の空いている曜限で、選択科目を履修できます。「教養教育授業時間割表」から履修したい科目を選び、巻末の「教養教育科目履修計画表」に記入します。

(2) 履修登録

(i) 履修登録

ヘルン・システム>履修・出欠・レポート>履修登録>履修登録・登録状況照会から、履修を希望する授業科目を登録します。

- ① (1) で作成した履修計画に基づき、選択科目を登録します。
- ② ここで登録できるのは、各学部・学科の「履修を指定する科目区分」、「選択できる科目数」(P53～54)の範囲内です。
- ③ 「履修を指定する科目区分」、「選択できる科目数」を超える科目や指定外の科目区分の科目については、(ii) 追加登録で履修登録を行います。
- ④ 教室定員の関係から、希望者が多い科目は抽選を行います。必ず抽選結果をヘルン・システム>時間割の画面で確認してください。落選した場合は、(ii) 追加登録で別の科目を登録することができます。

(ii) 追加登録

ヘルン・システム>履修・出欠・レポート>履修登録>履修登録・登録状況照会から、履修を希望する授業科目を登録します。

- ① 追加登録では「履修を指定する科目区分」、「選択できる科目数」を超えて登録を行うことが可能です。
- ② 追加登録では、履修の受付は先着順です。抽選は発生しません。

○ ヘルン・システム利用に当たっての留意事項

- ① ヘルン・システムを利用する際は「情報基盤センター承認書」記載のID、パスワードが必要です。
- ② ヘルン・システムは、通常、学内限定で利用可能です。学外からヘルン・システムを利用したい場合は、別途VPN接続が必要となります。VPN接続の方法は、富山大学情報基盤センターのウェブサイトにもマニュアルが掲載されていますので、必要に応じて各自で設定を行ってください。なお、設定マニュアルは学内ネットワークからのみ参照できます。また、VPN接続は、同時接続可能数に上限があり、混雑時は接続が不安定な場合がありますので注意してください。

(3) 履修登録の確認・取消

(i) 履修登録科目の確認

履修登録の状況は、ヘルン・システム内の「履修登録・登録状況照会」もしくは「時間割」画面から確認できます。抽選結果の確認を怠らないよう気を付けてください。

(ii) 履修科目の取消

履修登録・追加登録期間終了後の履修取消は、定められた期間にのみ、Microsoft Formsにて受け付けます。詳細は、Moodleに案内を掲載するので、確認してください。この際、履修取消のみ行うことができ、追加登録はできません。なお、取消申請を行った後、当該申請を取りやめることはできません。十分確認したうえで申請をしてください。

(4) ヘルン・システムの操作方法

具体的な操作方法是、キャンパスガイド掲載の「ヘルン・システム利用の手引き」を参照してください。

○ 選択科目履修登録におけるエラー

選択科目履修登録時に、登録内容にエラーがある場合はエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージのとおり対応しても登録ができない場合は、教養教育支援室まで連絡してください。

履修登録エラーメッセージ例と対応方法

履修登録エラーメッセージの例	対応方法
学期に履修可能な単位数を超えています。	学部で定めたCAP上限に抵触しています。自分が所属する学部・学科の履修の手引きを確認してください。
修得済の単位 / 授業科目数が排他単位 / 授業科目数の制限を超えています。	履修できない科目の登録もしくは履修登録可能な科目数を超える登録です。履修可能な科目、科目数の中で履修登録してください。
カリキュラム制限科目です。	履修できない科目です。履修可能な科目を登録してください。

Ⅳ 履修上の注意

1 教室

教養教育科目の授業は、主に五福キャンパス共通教育棟（以下、「共通教育棟」という）で行いますが、一部の教養教育科目や学術情報リテラシーⅠ・Ⅱ、健康・スポーツ実践等は、各学部や総合情報基盤センター、体育館等で行います。

また、授業時間割表には各授業の実施教室を掲載していますが、教室を変更することがあります。授業開始前に最新の時間割を確認してください。

2 出欠管理システム

共通教育棟の教室には出欠管理システムを導入しています。履修者は、授業開始前に教室設置型カードリーダーに学生証を読み取らせ、出席処理を行ってください。学生証の紛失等により出席処理を行うことができない場合は、授業開始前に教養教育支援室窓口で「出席確認票」を受け取り、ボールペン（フリクション不可）で必要事項をすべて記入した上で、科目担当教員からサイン又は押印をもらい、原則として当日中に教養教育支援室に提出してください。

提出された出席確認票に不備があり、出席登録ができない場合は、Activeメール等により登録できない旨の連絡が届きます。必ず内容を確認してください。なお、授業担当教員によっては、出欠管理システムによらず、名簿の読上げやレポート等の提出によって出欠を確認することがあります。出欠管理システムを利用しない授業においては、出席確認票の提出は不要です。

また、他人の学生証を利用して出席処理を行う等の行為により、あたかもその学生が出席したかのよ
うに装うことは、不正行為とみなし、懲戒処分の対象になりますので注意してください。他人に頼まれても絶対に断ってください。

3 欠席等の取扱い

(1) 公欠の取扱いについて

次に該当する事由で授業（集中講義を除く）に出席することができない場合、公欠届及び必要書類を提出することにより公欠となり、単位認定要件に係る欠席扱いとしないことができます。公欠となった当該授業については、レポート作成その他の方策により適切な学修支援を行い、学生が履修上不利とならないように配慮されます。

○ 公欠事由

- ① 2親等以内の親族が死亡した場合
- ② 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患した場合又は罹患のおそれがある場合
- ③ 裁判員制度による裁判員（補充裁判員を含む。以下同じ。）又は裁判員候補者に選任された場合
- ④ 検察審査会の審査員又は補充員に選任された場合
- ⑤ 配偶者、父母、子及び兄弟姉妹その他親族以外の者に骨髄提供等を行う場合

○ 手続き

公欠届と必要書類が整い次第（感染症の場合は、医療機関から診断書等が発行された後）、速やかに所属学部の教務担当窓口（医学部、薬学部及び芸術文化学部1年次は教養教育支援室窓口）へ提出してください。

(2) 欠席の取扱いについて

公欠には該当しませんが、教育実習やインターンシップ、病気、課外活動での大会出場等やむを得ない事由で授業（集中講義を除く）を欠席する場合は、所属学部の教務担当窓口（医学部、薬学部、芸術文化学部1年次は教養教育支援室窓口）で必要な手続きを確認してください。なお、欠席した授業及び成績評価における取扱は授業担当教員の判断に依ります。

(3) 公共交通機関の遅延等に係る取扱いについて

公共交通機関に遅延が生じたことにより授業に遅刻又は欠席する場合は、各公共交通機関で発行される遅延証明書を受け取り、授業担当教員へ提出してください。遅延への配慮については、授業担当教員が判断します。

4 授業に関する諸連絡（休講・補講・試験等）

休講・補講・試験等の通知は各学部及び共通教育棟A棟1階の掲示板、ヘルン・システムにて行います。メールや電話等による学生への個別連絡は行いません。

掲示板には、休講等の通知だけでなく、授業に関する様々な通知、TOEIC等の試験案内、海外留学説明会開催案内等も掲示されます。各学部及び共通教育棟A棟1階掲示板並びにヘルン・システムは毎日確認してください。これらを確認しないことによる不利益は、一切補償しません。

5 レポートの提出

(1) レポート課題について

教養教育の授業では、授業期間中又は期末試験としてレポートを課すことがあります。レポート作成に当たっては、授業担当教員の指示する課題内容を十分理解し、作成してください。

他人が書いた文章を無断で引用したり、自分の意見であるかのように書いたりすることを「剽窃行為」といいます。他の学生が作成したレポート等を丸写しする行為も同様です。こうした行為により作成されたレポート等が提出された場合、不正行為とみなし、懲戒処分の対象になりますので、絶対に行わないでください。これには、情報処理科目等においてデータで提出する課題等も該当します。（不正行為については、「V 単位認定」「2 不正行為」も参照してください。）

(2) レポート提出について

教養教育の授業に関するレポートの提出方法（例：Moodle、レポートボックス、メール、授業中に提出等）は、授業担当教員の指示に従ってください。教養教育科目のレポートボックスに提出を指示された場合、共通教育棟A棟1階C11教室前に設置しているレポートボックスに提出してください。

複数の教員により授業が行われる場合、教員ごとにレポートボックスが設置されることがあります。また、ターム末または学期末には多くの授業でレポートが課されるため、同時期にレポートボックス

を多数設置します。レポートボックスには、それぞれの授業科目名、授業担当教員名、開講曜日・時間、提出期限を表示していますので、レポートボックスを間違えないよう注意してください。

なお、提出期限を過ぎたレポートは評価対象にならないことがあります。また、誤ったレポートボックスに提出された場合も同様です。レポートボックスを間違えた場合は、速やかに教養教育支援室に申し出てください。

6 「健康・スポーツ実践」履修上の注意

(1) 服装について

「健康・スポーツ実践」における服装は、運動に適したものを着用してください。また、体育館で実施する種目では内履き専用の運動靴が、テニスではテニスシューズがそれぞれ必要となります。

(2) 「学生教育研究災害傷害保険」の加入について

本学では、正課中（授業中）に、身体に被ったケガに対して補償対象となる「学生教育研究災害傷害保険」に全員加入しています。万が一、正課中（授業中）にケガを負った場合は、速やかに授業担当教員に報告し、必要に応じて医療機関等を受診してください。

補償対象となる「正課中のケガ」とは、授業担当教員の指示に基づき授業を受けている間（準備もしくは後始末を行っている間も含む）に生じた「急激」かつ「偶然」な「外来」の事故により、身体に被ったケガを指し、通院・入院日数に応じた保険金が支払われます。

○ 「急激」かつ「偶然」な「外来」の事故とは

「急激」とは、事故が突発的に発生し、被保険者にとって予測・回避できないことを意味します。「偶然」とは、事故の原因または結果の発生が、被保険者にとって予知できないこと、被保険者の意思に基づかないことを意味します。「外来」とは、事故の原因が、被保険者の身体に内在するものではなく、外部からの作用によることをいいます。

ただし、どんな場合でも補償対象となるものではありません。必ず、学生会館1階学生支援課の学生保険担当窓口にご相談・報告してください。

(3) 定期健康診断の受診について

「健康・スポーツ実践」を履修する学生は全員、本学が実施する定期健康診断を受診しなければなりません。定期健康診断を受診していない学生は、「健康・スポーツ実践」の履修を認めません。

V 単位認定

1 試験

成績評価は、シラバスに記載された成績評価方法に基づき行います。成績評価方法には、ターム末または学期末に実施する試験や授業期間中に実施する小テスト、課題レポートなど、科目により様々な方法があります。

試験実施等については、各学部及び共通教育棟A棟1階掲示板、ヘルン・システムにて通知するほか、授業担当教員によっては授業中に試験実施等の通知を行うことがあります。また、試験実施日や試験実施教室は、通常授業の曜限、教室から変更することがありますので注意してください。

○ 受験時の注意事項

- ① 試験は履修登録が認められた科目のみ受けることができる。
- ② 受験の際は、必ず学生証を机上に提示すること。学生証を紛失している場合は、試験日までに再発行の手続きを取ること。試験日までに学生証の再発行が間に合わない場合は、授業担当教員に事前に相談し、指示に従うこと。
- ③ 授業担当教員より座席が指定されている場合は、指定された座席において受験すること。
- ④ 携帯電話やスマートフォン等、音の出る機器は必ず電源を切り、カバン等に入れること。携帯電話等を時計代わりに使用することはできない。
- ⑤ 受験中、机上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及び特に指定されたものに限る。それ以外のものについてはカバン等に入れて足元に置き、机の棚入れは何も入っていない状態にすること。
- ⑥ 解答用紙には学籍番号、氏名等必要事項を必ず記載すること。
- ⑦ 受験中は、不正行為はもちろんのこと、不正を疑われるような行為・態度は慎み、厳正な態度で臨むこと。
- ⑧ その他、試験中は授業担当教員の指示に従うこと。

2 不正行為

試験等における不正行為は、学生としてあるまじき行為であり、絶対に許されるものではありません。本学では、不正行為に対して厳正に対処し、不正行為が認定された場合は、35日間を標準とする停学に加え、当該科目のみならず、当該試験期間中に受験した全ての試験科目を無効とし、卒業が半年以上延期となります。

○ 試験実施において不正行為とみなされる行為例

- ① 教科書、参考書、辞書等の書籍類の内容を見る行為（使用を許可された場合を除く。）
- ② 試験に関する内容のメモやコピー、机上や手掌等への書き込み、又はこれらに類するものを使用又は所持する行為
- ③ 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を試験監督者の指示する場所に置かず、使用する又は所持する行為（使用を許可された場合を除く。）
- ④ 他人と情報等のやり取りをする行為
- ⑤ 他人の答案を見る、又は他人に答案を見せる行為
- ⑥ 他人の代わりに受験する、又は他人を自分の代わりに受験させる行為
- ⑦ 試験等の公正な実施を妨げる恐れのある行為
- ⑧ 試験監督者等の注意、指示等に従わない行為

○ レポート課題において不正行為とみなされる行為

- ① 他人が書いた文章やインターネット上に公開している文章を無断で引用したり、自分の意見であるかのように書いたりすること（剽窃行為）。
- ② 他人のレポートを代筆すること。
- ③ 自身のレポートを他の学生に見せること。

○ その他不正行為とみなされる行為

- ① 他人の代わりに出席登録を行う、授業を受けずに出席登録のみ行う行為。

これらはあくまで一例です。これらの行為以外でも、行為によっては不正行為と見なされることがありますので、不正を疑われるような行為は決して行わないでください。

3 追試験

教養教育科目については、真にやむを得ない欠席理由によって試験が受けられなかった場合、追試験許可願及び欠席理由を証明する書類を提出することにより、1授業科目につき1回に限り追試験を許可することがあります。

追試験を願い出る場合は、当該科目の試験実施日以前又は試験実施の翌日から原則として5日以内（土、日及び祝日を除く。）に「追試験許可願」及び欠席理由を証明する書類等を教養教育支援室に提出してください。

欠席理由及び欠席理由を証明する書類等

欠席理由	欠席理由を証明する書類等
本人の傷病	医師の診断書（インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の場合は、医療機関が発行した感染したことが分かる診療明細書、薬剤情報提供書等に代えることができる）
親族（三親等以内）の死亡	会葬礼状又は死亡診断書
就職活動 （ただし、採用面接（試験）の受験、採用面接（試験）の受験資格となる説明会への出席に限る。）	企業、官公庁等が発行する証明書又は通知文（就職活動の採用面接（試験）又は採用面接（試験）の受験資格となる説明会の場所、日時及び内容が明記されていること。）
交通機関の遅延	交通機関の遅延証明書
災害（台風、水害、火災、地震等）	罹災証明書等災害の状況が把握できる書類
実習 （ただし、教育実習、介護等体験、臨床実習、臨地実習、臨床実務実習、博物館実習及びインターンシップに限る。）	実習期間が明記されている協定書等の書類
課外活動等における地区大会等を経た全国大会レベル以上の大会出場（ただし、選手または団員として、競技や実演に出場する場合に限る。）	次に掲げる書類 （1） 招聘機関等発行の証明書又は派遣依頼書 （2） 当該大会等の内容が分かる書類
裁判員制度に基づく要請	裁判所からの要請等を証明する書類
検察審査会からの要請	検察審査会事務局からの招集状の写し等
配偶者、父母、子及び兄弟姉妹その他親族以外の者に骨髄又は末梢血幹細胞の提供を行う場合	公益財団法人日本骨髄バンクが発行する証明書の写し等

4 成績評価の確認

(1) 成績評価の確認

成績発表日以降、ヘルン・システム内の「履修成績照会」画面より成績評価を確認することができます。学生に対して個別に成績通知は行いませんので、必ず自身で確認し、成績評価及び単位修得状況を確認してください。

(2) 成績評価に対する異議申立て

成績発表後、自身の成績評価について、以下に該当する場合は、教養教育院長に対し、異議を申し立てることができます。ただし、成績評価の理由や根拠に関する申し立ては認めません。

(i) 成績評価の誤記入等、明らかに授業科目担当教員の誤りであると思われるもの。

(ii) シラバス等により学生に周知している達成目標及び成績評価の方法に照らして、明らかに誤りがあると思われるもの。

成績評価異議申立ての方法及び受付期間については、各学期に各学部及び共通教育棟A棟1階掲示板、ヘルン・システム及び Moodle 等で通知します。

5 不可となった科目の取扱い

(1) 再履修

成績評価が「不可」となった教養教育科目は、次ターム以降に再履修することができます。再履修の履修登録方法は、他の教養教育科目と同様、教養科目履修登録期間中にヘルン・システムで行います。

ただし、外国語科目等の一部科目については、再履修方法が指定されています。

再履修方法が指定されている教養教育科目（9学部共通）

教養教育科目名	再履修方法
ESP I・II 基盤英語 I・II 初修外国語 健康・スポーツ実践 学術情報リテラシー I・II	再履修方法の詳細は、学期開始前の案内に従うこと。

その他の教養教育科目について再履修方法に指定がある場合は、各学部及び共通教育棟A棟1階掲示板、ヘルン・システム及び Moodle 等にて別途通知します。

(2) 再試験

所属学部が必修としている教養教育科目（ただし、講義科目に限る）について、成績評価が「不可」とされ、再履修ができない特段の事情があると認められた場合に限り、再試験を行うことがあります。

なお、再試験は原則として1授業科目につき、1回に限り実施します。

再試験を願い出る場合は、「再試験許可願」に再試験が必要となる理由書を添付して、所属する学部の教務担当窓口へ提出してください。提出された「再試験許可願」等により再試験の実施の可否について決定します。再試験の実施が認められた場合、所属する学部を通じて通知します。また、その場合の再試験実施日は、原則として次ターム以降又は次年度の試験期日となります。

なお、再試験による成績評価は、「可」又は「不可」のみとします。

6 既修得単位等の認定

(1) 入学前の既修得単位の認定

学生が本学に入学する前に、他の大学等において単位を修得した教養教育に関する科目について、教養教育科目の履修により単位を修得したものとみなし、所属学部により単位を認定することがあります。他の大学等における既修得単位の認定を希望する学生は、入学時に行う学部オリエンテーションの際、所属する学部の教務担当窓口申し出て下さい。

なお、単位認定に当たり、授業科目のシラバス、教科書等の提出を求めることがあります。

(2) 大学以外の教育施設等における学修の認定

一部の教養教育科目については、富山大学教養教育履修規則第 17 条に基づき大学以外の教育施設等における学修を本学の教養教育科目の履修とみなし、単位を修得することができます。学修の認定を希望する学生は、所属する学部の教務担当窓口申し出て下さい。

対象となる教養教育科目及び単位数は以下のとおりです。

なお、同一の認定基準における単位認定は、一度限りとします。また、既に単位を認定された者がさらに上位の認定基準により単位認定を受ける場合、上位の認定基準の単位数から既に認定された単位数を差し引いた単位数を認定します。

(i) 英語

英検	TOEIC (L&R) (990)	TOEFL		IELTS (9.0)	ケンブリッジ 英検 (230)	認定単位数
		iBT (120)	ITP (677)			
	650-725	61-71	525-549	5.5	140-159	1 単位
準 1 級	730-855	72-94	550-635	6.0-6.5	160-179	2 単位
1 級	860-990	95-120	636-677	7.0-9.0	180-230	4 単位

(注) TOEIC は、TOEIC IP を含む。

対応する教養教育科目は、ESP I・II、基盤英語 I・II とする。

(ii) ドイツ語

ドイツ語技能検定試験	対応する教養教育科目及び与える単位数
4 級	ドイツ語基礎 I 及び ドイツ語コミュニケーション I 2 単位
3 級以上	ドイツ語基礎 I, II 及び ドイツ語コミュニケーション I, II 4 単位

(iii) フランス語

実用フランス語 技能検定試験（仏検）	DELF・DALF	対応する教養教育科目及び与える単位数
5級		フランス語基礎Ⅰ又は フランス語コミュニケーションⅠ 1単位
4級	A1	フランス語基礎Ⅰ及び フランス語コミュニケーションⅠ 2単位
3級以上	A2以上	フランス語基礎Ⅰ、Ⅱ及び フランス語コミュニケーションⅠ、Ⅱ 4単位

(iv) 中国語

HSK（漢語水平考試）	中国語検定試験	対応する教養教育科目及び与える単位数
3級	4級	中国語基礎Ⅰ及び 中国語コミュニケーションⅠ 2単位
4級以上	3級以上	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ及び 中国語コミュニケーションⅠ、Ⅱ 4単位

(v) 朝鮮語

「ハングル」能力検定試験	韓国語能力試験	対応する教養教育科目及び与える単位数
4級	3級	朝鮮語基礎Ⅰ及び 朝鮮語コミュニケーションⅠ 2単位
3級以上	4級以上	朝鮮語基礎Ⅰ、Ⅱ及び 朝鮮語コミュニケーションⅠ、Ⅱ 4単位

(vi) ロシア語

ロシア語能力 検定試験	対応する教養教育科目及び与える単位数
4級	ロシア語基礎Ⅰ ロシア語コミュニケーションⅠ 2単位
3級以上	ロシア語基礎Ⅰ、Ⅱ及び ロシア語コミュニケーションⅠ、Ⅱ 4単位

(vii) 放送大学

放送大学との単位互換協定により、放送大学で修得した単位を本学の指定する単位数に認定することができます。詳しくは、掲示板及びヘルプ・システムで通知します。

(viii) 英語研修プログラム

本学の国際機構が実施する英語研修プログラムを修了することで、本学の指定する単位数に認定することができます。詳しくは、所属する学部の教務担当窓口で確認してください。

上記に記載がない場合でも、学修の認定を行う機関等が決定した場合、別に学内掲示板及びヘルプ・システムで通知します。

Ⅵ 各学部・学科における卒業要件単位一覧

1 人文学部

	区分	必修科目	選択科目
基礎科目	情報化社会への対応（共通）	2単位	—
	国際化社会への対応（共通）	4単位	—
	社会的変化への対応（共通）	2単位	—
	情報化社会への対応（選択）	—	2単位
	国際化社会への対応（選択）	—	4単位 ^{注1)}
	社会的変化への対応（選択）	2単位 ^{注2)}	2単位 ^{注3)}
高年次教養科目	—		
分野別科目	自然科学	—	2単位
	社会科学	—	2単位
	人文科学	—	2単位
統合科目		—	2単位
理系基盤科目		—	—
計		10単位	16単位
<p>注1) 1言語を選び、同一言語で以下の合計4単位を必ず修得する（外国人留学生のみ日本語を選ぶこともできる）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎Ⅰ（日本語はアカデミックスキルⅠ） ・基礎Ⅱ（日本語はアカデミックスキルⅡ） ・コミュニケーションⅠ ・コミュニケーションⅡ <p>注2) 「健康・スポーツ論」「健康・スポーツ実践」を必ず修得する。</p> <p>注3) 以下から合計2単位を選択して修得する。</p> <p>社会的変化への対応（選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始動学修：考察：1単位 ・始動学修：実践：1単位 <p>高年次教養科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携学修：2単位 ・発展コミュニケーション演習：1単位 ・高年次教養ゼミナール：1単位 			

卒業要件単位として算入する単位の上限

上記の指定を超えて単位を修得する場合、以下の単位数までを「自由選択科目」として認定し、卒業要件単位に算入する。

基礎科目

- ・ 情報化社会への対応（選択）： 2 単位
- ・ 国際化社会への対応（選択）： 2 単位
- ・ 社会的変化への対応（選択）： 0 単位（算入しない）

高年次教養科目： 2 単位

分野別科目

- ・ 自然科学： 1 単位
- ・ 社会科学： 2 単位
- ・ 人文科学： 2 単位

統合科目： 2 単位

理系基盤科目： 0 単位（算入しない）

2 教育学部

	区分	必修科目	選択科目	
基礎科目	情報化社会への対応（共通）	2単位	—	
	国際化社会への対応（共通）	4単位	—	
	社会的変化への対応（共通）	2単位	—	
	情報化社会への対応（選択）	—	1単位	いずれかから さらに1単位
	国際化社会への対応（選択）	—	2単位	
	社会的変化への対応（選択）	2単位		
分野別科目	自然科学	—	1単位	いずれかから さらに1単位
	社会科学	2単位		
	人文科学	—	1単位	
統合科目		—	2単位	
高年次教養科目		—		
理系基盤科目		—	—	
計		12単位	10単位	
<p>1. 基礎科目「国際化社会への対応（選択）」は、ドイツ語・フランス語・中国語・朝鮮語・ロシア語のうち、同一言語における「基礎Ⅰ，Ⅱ」「コミュニケーションⅠ，Ⅱ」から2単位を選択必修とする。</p> <p>2. 理系基盤科目は、自由単位として単位認定する。ただし、卒業要件単位として算入しない。</p> <p>3. 卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由単位として単位認定する。ただし、卒業要件単位として算入はしない。</p>				

3 経済学部

	区分	必修科目	選択科目		
基礎科目	情報化社会への対応 (共通)	2単位	—		
	国際化社会への対応 (共通)	4単位	—		
	社会的変化への対応 (共通) ※履修不可	—	—	—	—
	情報化社会への対応 (選択)	—	1単位	} いずれかからさらに1単位 [基礎科目「国際化社会への 対応(選択)」を除く]	} 5言語の「基礎 I,II, コ ミュニケーション I,II」 から4単位を選択必修 ※外国人留学生は「日本 語アカデミックスキル I, II, 日本語コミュニケーション I, II」も含む
	国際化社会への対応 (選択)	—	4単位		
	社会的変化への対応 (選択)	2単位			
分野別科目	自然科学	—	2単位	} いずれかからさらに 4単位 [分野別科目 (社会科学)は除く] ※1科目枠4単位ま でを上限とする。	
	社会科学 ※自由選択科目として算 入	—	—		
	人文科学	—	2単位		
統合科目		—	2単位		
高年次教養科目		—			
理系基盤科目 ※自由選択科目として算入		—	—	—	
計		8単位	16単位		
<p>卒業要件単位として算入する単位の上限</p> <p>1. 教養教育科目における卒業要件単位として算入する上限は、1科目枠4単位までとする。</p> <p>2. 選択科目16単位を超えて修得した単位は、10単位まで卒業要件単位（経済学部における自由選択科目）として算入する。</p> <p>3. 卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由単位として単位認定をする。ただし、卒業要件単位として算入はしない。</p>					

4 理学部

	区分	必修科目	選択科目		
基礎科目	情報化社会への対応 (共通)	2単位	—		
	国際化社会への対応 (共通)	4単位			
	社会的変化への対応 (共通)	2単位			
	情報化社会への対応 (選択)	—	2単位	} いずれか からさらに 1単位	} [分野別科目 (自然科学)] を除いた区分か らさらに6単位
	国際化社会への対応 (選択)	—	1単位 ※多言語世界入門ま たは5言語の「基礎 I, II」「コミュニ ケーション I, II」 から1単位を選択必 修		
	社会的変化への対応 (選択)	—	1単位		
分野別科目	自然科学 ※自由選択科目として 算入	—	—	—	
	社会科学	—	3単位	—	
	人文科学	—	3単位	—	
統合科目		—	3単位	—	
高年次教養科目		—	—	—	
理系基盤科目 ※「概説医療心理学」「医療心理学 I」 「医療心理学 II」を自由選択科目 として算入		—	—	—	
計		8単位	20単位		

卒業要件単位として算入する単位の上限

1. 教養教育科目における卒業要件単位として算入する上限は、1科目区分につき6単位までを上限とする。
2. 選択科目として20単位を超えて修得した単位、[分野別科目(自然科学)]及び[理系基盤科目「概説医療心理学」「医療心理学 I」「医療心理学 II」]の履修により修得した単位は、12単位まで(国際コースは10単位まで)卒業要件単位(理学部における自由選択科目の単位)として算入する。
ただし、自由選択科目における各区分の上限は、選択科目と合わせて6単位までとする。
3. 卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由単位として単位認定する。ただし、卒業要件単位として算入はしない。

5 医学部医学科

	区分	必修科目	選択科目			計
基礎科目	情報化社会への対応(共通)	2単位	—	—	—	2単位
	国際化社会への対応(共通)	4単位	—	—	—	4単位
	社会的変化への対応(共通)	2単位	—	—	—	2単位
	情報化社会への対応(選択)	—	1単位	いずれかからさらに1単位 ^{*2}	—	12単位
	国際化社会への対応(選択)	—	2単位 ^{*1}		—	
	社会的変化への対応(選択)	1単位	1単位		—	
分野別科目	自然科学	—	—	いずれかからさらに2単位 ^{*5} 分野別科目(自然科学)は除く	12単位	
	社会科学	—	1単位			
	人文科学	—	1単位			
統合科目		—	1単位	—		
高年次教養科目		—	—	—	—	
理系基盤科目		8単位	2単位 ^{*4}	—	10単位	
計		17単位	9単位	2単位	2単位	30単位

〈履修上の注意点〉

- ・ 医学科では、1年次修了時において、卒業要件単位数(30単位)を修得していない者は、2年次に進級できません。
- ・ 卒業要件を満たすためには、各科目区分で定められた単位数の修得が必要です。
- ・ 選択科目の履修にあたっては、「※1」～「※5」に留意して履修してください。

●卒業要件単位数：必修科目17単位+選択科目13単位

〈選択科目の履修の際の注意事項〉

- ※1 同一言語の「基礎Ⅰ、Ⅱ」または「コミュニケーションⅠ、Ⅱ」から2単位を選択すること。
- ※2 基礎科目(情報化社会への対応(選択)、国際化社会への対応(選択)及び社会的変化への対応(選択))の中から1単位を選択すること。
- ※3 分野別科目(社会科学及び人文科学)の中から1単位を選択すること。
- ※4 以下の科目から2単位を選択すること。
「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」、「物理学Ⅲ」、「物理学Ⅳ」
- ※5 基礎科目(社会的変化への対応(選択))、分野別科目(社会科学、人文科学)及び統合科目の中から2単位を選択すること。なお、分野別科目(自然科学)は除くため、注意すること。

〈その他〉

卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由科目として扱う。

6 医学部看護学科

	区分	必修科目	選択科目		
基礎科目	情報化社会への対応 (共通)	2単位			
	国際化社会への対応 (共通)	4単位			
	社会的変化への対応 (共通)	2単位 ^{*1}			
	情報化社会への対応 (選択)	—	1単位	whichever one from additionally 4 units ^{*2} (from science base subjects that can be earned, up to 2 units maximum)	
	国際化社会への対応 (選択)	—	1単位		
社会的変化への対応 (選択)	1単位 ^{*1}	1単位			
分野別科目	自然科学	—	1単位		分野別科目からさらに1単位
	社会科学	—	1単位		
	人文科学	—	1単位		
統合科目		—	2単位		
高年次教養科目		—			
理系基盤科目		2単位 ^{*1}	2単位		
計		11単位 ^{*3}	15単位 ^{*4}		
1. 選択科目のうち、「いずれかからさらに4単位」で理系基盤科目から修得できる単位は2単位まで。 2. 卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由単位として単位認定をする。ただし、卒業要件単位として算入はしない。 ※3年次編入学生については、次のとおりとする。 ※1:「—」、※2:「9単位」、※3:「6単位」、※4:「20単位」					

7 薬学部

区分		必修科目	選択科目		
基礎科目	情報化社会への対応 (共通)	2 単位	—		—
	国際化社会への対応 (共通)	4 単位	—		
	社会的変化への対応 (共通)	2 単位	—		
	情報化社会への対応 (選択)	—	1 単位	—	いづれかから さらに2単位 (分野別科目 「自然科学」は 除く)
	国際化社会への対応 (選択)	—	2 単位※	—	
	社会的変化への対応 (選択)	—	1 単位	—	
分野別科目	自然科学	—	—	—	
	社会科学	—	1 単位	いづれか からさらに 2 単位	
	人文科学	—	1 単位		
統合科目		—	2 単位	—	
高年次教養科目		—	—	—	
理系基盤科目		2 単位	12 単位	—	
小計		10 単位	<u>20 単位</u>	2 単位	2 単位
計		10 単位	24 単位		

※ 同一言語の「基礎Ⅰ，Ⅱ」「コミュニケーションⅠ，Ⅱ」の中から2単位修得すること。外国人留学生は「日本語アカデミックスキルⅠ，Ⅱ，」「日本語コミュニケーションⅠ，Ⅱ」も含む。

8 工学部

	区分	必修科目	選択科目
	情報化社会への対応 (共通)	2単位	—
	国際化社会への対応 (共通)	4単位	
	社会的変化への対応 (共通)	2単位	
基礎科目	情報化社会への対応 (選択)	—	2単位
	国際化社会への対応 (選択)	—	1単位 ※「多言語世界入門」ないし 5言語 ^(注1) の「基礎Ⅰ,Ⅱ」 「コミュニケーションⅠ, Ⅱ」から1単位選択必修。
	社会的変化への対応 (選択)	—	2単位
分野別科目	自然科学 ※自由選択科目として算入	—	—
	社会科学	—	2単位
	人文科学	—	2単位
	統合科目	—	2単位
	高年次教養科目	—	
	理系基盤科目 ※一部科目のみ自由選択科目 として算入 ^(注2)	—	—
	計	8単位	15単位

いずれかから
さらに4単位
(「分野別科目
(自然科学)」
は含めない。)

卒業要件単位数として算入する単位の上限

1. 教養教育科目における卒業要件単位として算入する選択科目の15単位は、1区分につき4単位までを上限とする。

2. 選択科目15単位を超えて修得した単位は、10単位まで卒業要件単位（工学部における自由選択科目の単位）として算入することができる。

3. 卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由科目の単位として単位認定をする。ただし、卒業要件単位として算入はしない。

4. 外国人留学生の履修方法については別に定める。

(注1) 5言語は「令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧」1-5基礎科目（国際化社会への対応（選択））を参照すること。

(注2) 理系基盤科目の自由選択科目は「令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧」5理系基盤科目を参照すること。

8 工学部（外国人留学生用）

	区分	必修科目	選択科目	
基礎科目	情報化社会への対応 (共通)	2 単位	—	
	国際化社会への対応 (共通) ※自由選択科目として算入	—		
	社会的変化への対応 (共通)	2 単位		
	情報化社会への対応 (選択)	—	2 単位	いづれかからさらに4単位 （「分野別科目 （自然科学）」 は含めない。）
	国際化社会への対応 (選択)	4 単位 ※外国人留学生は 「日本語アカデミックスキルⅠ」 「日本語アカデミックスキルⅡ」 「日本語コミュニケーションⅠ」 「日本語コミュニケーションⅡ」 を必修とする。	1 単位 ※「多言語世界入門」 ないし5言語 ^(注1) の 「基礎Ⅰ, Ⅱ」「コミュニ ケーションⅠ, Ⅱ」 から1単位選択必修。	
	社会的変化への対応 (選択)	—	2 単位	
分野別科目	自然科学 ※自由選択科目として算入	—	—	
	社会科学	—	2 単位	
	人文科学	—	2 単位	
	統合科目	—	2 単位	
	高年次教養科目	—		
	理系基盤科目 ※一部科目のみ自由選択 科目として算入 ^(注2)	—	—	
	計	8 単位	15 単位	
<p>卒業要件単位数として算入する単位の上限</p> <p>1. 教養教育科目における卒業要件単位として算入する選択科目の15単位は、1区分につき4単位までを上限とする。</p> <p>2. 選択科目15単位を超えて修得した単位は、10単位まで卒業要件単位（工学部における自由選択科目の単位）として算入することができる。</p> <p>3. 卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由科目の単位として単位認定をする。ただし、卒業要件単位として算入はしない。</p> <p>(注1) 5言語は「令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧」1-5基礎科目（国際化社会への対応（選択））を参照すること（日本語は必修、母語は選択できません）。</p> <p>(注2) 理系基盤科目の自由選択科目は「令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧」5理系基盤科目を参照すること。</p>				

9 芸術文化学部

	区分	必修科目	選択科目	
基礎科目	情報化社会への対応（共通）	2単位	—	—
	国際化社会への対応（共通）	4単位	—	—
	社会的変化への対応（共通）	2単位	—	—
	情報化社会への対応（選択）	—	1単位	） いずれかから さらに4単位 以上
	国際化社会への対応（選択）	—	1単位 ※「多言語世界入門」ないし5言語の「基礎Ⅰ，Ⅱ」「コミュニケーションⅠ，Ⅱ」から1単位を選択必修	
	社会的変化への対応（選択）	1単位	2単位	
分野別科目	自然科学	—	1単位	
	社会科学	—	2単位	
	人文科学	—	2単位	
統合科目		—	2単位	
高年次教養科目		—	—	
理系基盤科目		—	—	—
計		9単位	11単位	4単位以上

区分ごとに修得できる単位の上限は4単位とする。

卒業要件単位として算入する単位の上限

1. 選択科目として15単位を超えて修得した単位は、12単位まで卒業要件単位として算入する。
2. 卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由単位として単位認定をする。ただし、卒業要件単位として算入はしない。

外国人留学生

英語を母語とする留学生は、基礎科目「国際化社会への対応（共通）」を全て自由単位とし、基礎科目「国際化社会への対応（選択）」において、区分ごとに修得できる単位の上限に関わらず、当該留学生にとっての外国語科目等から、5単位以上（英語以外を母語とする留学生は1単位以上）を選択とする。

10 都市デザイン学部

	区分	必修科目	選択科目	
基礎科目	情報化社会への対応（共通）	2単位	—	
	国際化社会への対応（共通）	4単位		
	社会的変化への対応（共通）	2単位		
	情報化社会への対応（選択）	—	1単位	いずれかからさらに4単位 ※1科目区分につき4単位までを上限とする。
	国際化社会への対応（選択）	—	1単位 ※「多言語世界入門」ないし5言語の「基礎Ⅰ，Ⅱ」「コミュニケーションⅠ，Ⅱ」から1単位を選択必修	
	社会的変化への対応（選択）	—	1単位	
分野別科目	自然科学	—		
	社会科学	—	3単位	
	人文科学	—	3単位	
統合科目		—	2単位	
高年次教養科目		—		
理系基盤科目 ※自由選択科目として算入		—	—	
計		8単位	15単位	
<p>卒業要件単位として算入する単位の上限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目における卒業要件単位として算入する上限は、1科目区分につき4単位までを上限とする。 ・選択科目として15単位を超えて修得した単位及び理系基盤科目で修得した単位は、10単位まで卒業要件単位（都市デザイン学部における自由選択科目の単位）として算入する。 ・卒業要件単位として算入する単位の上限を超えて修得した単位については、自由単位として単位認定をする。ただし、卒業要件単位として算入しない。 				

Ⅶ 令和8年度入学者教養教育開設授業科目一覧

1-1 基礎科目（情報化社会への対応（共通））

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考	
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部		
学術情報リテラシーⅠ	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
学術情報リテラシーⅡ	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，－：履修不可

1-2 基礎科目（国際化社会への対応（共通））

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部	
E S P I (Level-based)	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ^{*1}	◎	◎	
E S P II (Interest-based)	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ^{*1}	◎	◎	
基盤英語Ⅰ	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ^{*1}	◎	◎	
基盤英語Ⅱ	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎ ^{*1}	◎	◎	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，－：履修不可
 ※1 工学部に所属する外国人留学生は英語4単位必修に代わり，日本語4単位必修とする。

1-3 基礎科目（社会的変化への対応（共通））

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部	
導入学修A	1	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
導入学修B	1	◎	◎	－	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，－：履修不可

1-4 基礎科目（情報化社会への対応（選択））

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イン 学 部	
プログラミング基礎Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
プログラミング基礎Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
現代情報処理Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
現代情報処理Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
データサイエンスの世界	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
データサイエンスの実践	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
データ分析基礎Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
データ分析基礎Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	-	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，-：履修不可

1-5 基礎科目（国際化社会への対応（選択））

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イン 学 部	
ドイツ語基礎Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ドイツ語基礎Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ドイツ語コミュニケーションⅠ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ドイツ語コミュニケーションⅡ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語基礎Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語基礎Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語コミュニケーションⅠ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
フランス語コミュニケーションⅡ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語基礎Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語基礎Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語コミュニケーションⅠ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
中国語コミュニケーションⅡ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
朝鮮語基礎Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
朝鮮語基礎Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
朝鮮語コミュニケーションⅠ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
朝鮮語コミュニケーションⅡ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

ロシア語基礎Ⅰ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ロシア語基礎Ⅱ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ロシア語コミュニケーションⅠ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ロシア語コミュニケーションⅡ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
日本語アカデミックスキルⅠ	1	○	○	○	○	○	○	○	◎ ^{※3}	○	○	外国人留学生限定
日本語アカデミックスキルⅡ	1	○	○	○	○	○	○	○	◎ ^{※3}	○	○	外国人留学生限定
日本語コミュニケーションⅠ	1	○	○	○	○	○	○	○	◎ ^{※3}	○	○	外国人留学生限定
日本語コミュニケーションⅡ	1	○	○	○	○	○	○	○	◎ ^{※3}	○	○	外国人留学生限定
実用日本語	1	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	外国人留学生限定
多言語演習	1	○	○	□	○	○	○	△	○	○	○	※2
異文化理解A	1	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	外国人留学生限定
異文化理解B	1	○	○	□	○	○	○	○	○	○	○	外国人留学生限定
多言語世界入門	1	○	○	□	○	○	○	△	○	○	○	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，－：履修不可

※2 理学部に所属する学生の多言語演習：選択必修科目には含まないが，選択科目，自由選択科目には含めることができる。

※3 工学部に所属する外国人留学生は英語4単位必修に代わり，日本語4単位必修とする。

1-6 基礎科目（社会的変化への対応（選択））

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考	
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学 科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部		
始動学修：考察	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
始動学修：実践	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
健康・スポーツ論	1	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	
健康・スポーツ実践	1	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	○	○	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，－：履修不可

2-1 分野別科目 (自然科学)

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イン 学 部	
自然科学への扉	1	◇	○	○	□	-	○	-	□	○	○	
科学技術への扉	1	◇	○	○	□	-	○	-	□	○	○	
生命科学への扉	1	◇	○	○	□	-	○	-	□	○	○	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，-：履修不可

2-2 分野別科目 (社会科学)

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イン 学 部	
法学への扉	1	◇	○	□	○	○	○	○	○	○	○	
日本国憲法 I	1	◇	◎	□	○	○	○	○	○	○	○	
日本国憲法 II	1	◇	◎	□	○	○	○	○	○	○	○	
経済学への扉	1	◇	○	□	○	○	○	○	○	○	○	
経営学への扉	1	◇	○	□	○	○	○	○	○	○	○	
現代社会論	1	◇	○	□	○	○	○	○	○	○	○	
教育と社会	1	◇	○	□	○	○	○	○	○	○	○	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，-：履修不可

2-3 分野別科目（人文科学）

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部	
思想と倫理	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
こころの科学	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
多様性と文化	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
文学の世界	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
アート&デザイン	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
歴史の世界	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発展人文科学講義	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，－：履修不可

3 統合科目

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部	
サステイナビリティ	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ウェルビーイング	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
人文と自然	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
自然と社会	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会と人文	1	◇	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，－：履修不可

4 高年次教養科目

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部	
地域連携学修	2	◇	○	○	○	△	○	○	○	○	○	
発展コミュニケーション演習	1	◇	○	○	○	△	○	○	○	○	○	
高年次教養ゼミナール	1	◇	○	○	○	△	○	○	○	○	○	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，-：履修不可

5 理系基盤科目

教養教育科目名	単 位 数	学部学科名										備 考
		人 文 学 部	教 育 学 部	経 済 学 部	理 学 部	医 学 部 医 学科	医 学 部 看 護 学科	薬 学 部	工 学 部	芸 術 文 化 学 部	都 市 デ ザ イ ン 学 部	
解析学Ⅰ	1	△	△	-	-	◎	-	○	△	-	-	
解析学Ⅱ	1	△	△	-	-	△	-	○	△	-	-	
物理学Ⅰ	1	△	△	-	-	○	-	○	△	-	-	
物理学Ⅱ	1	△	△	-	-	○	-	○	△	-	-	
物理学Ⅲ	1	△	△	-	-	○	-	○	△	-	-	
物理学Ⅳ	1	△	△	-	-	○	-	○	△	-	-	
化学・物理学実験	1	-	-	-	-	◎	-	◎	-	-	-	
基礎化学Ⅰ	1	△	△	-	-	◎	-	○	△	-	-	
基礎化学Ⅱ	1	△	△	-	-	△	-	○	△	-	-	
生体有機化学Ⅰ	1	△	△	-	-	◎	-	△	△	-	-	
生体有機化学Ⅱ	1	△	△	-	-	△	-	△	△	-	-	
生命科学Ⅰ	1	△	△	-	-	◎	◎	○	□	-	-	
生命科学Ⅱ	1	△	△	-	-	◎	◎	○	□	-	-	
生命科学Ⅲ	1	△	△	-	-	◎	○	○	□	-	-	
生命科学Ⅳ	1	△	△	-	-	△	○	○	□	-	-	
生物学実験	1	-	-	-	-	△	-	◎	-	-	-	
概説医療心理学	1	△	△	-	□	◎	○	△	□	-	□	
医療心理学Ⅰ	1	△	△	□	□	-	○	○	□	-	□	
医療心理学Ⅱ	1	△	△	□	□	-	○	○	□	-	□	

◎：必修科目，◇：選択必修科目，○：選択科目，□：自由選択科目，△：自由科目，-：履修不可

Ⅷ 関係規則

富山大学教養教育履修規則

当規則は、本学のウェブサイトに掲載しています。

富山大学ウェブサイト>教育・学生支援>学生支援>富山大学規則集>
目次検索>第1編 組織及び運営 第9章 学務 第1節 学務

<http://www3.u-toyama.ac.jp/soumu/kisoku/pdf/0109130.pdf>



富山大学教養教育追試験内規

平成30年2月9日制定

令和4年3月25日改正

令和8年2月6日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学教養教育履修規則（以下「規則」という。）第14条第2項の規定に基づき、教養教育の授業科目の追試験に関し必要な事項を定める。

(追試験願)

第2条 追試験を願い出る場合は、当該科目の試験実施日以前又は試験実施の翌日から原則として5日以内（土、日及び祝日を除く。）に、別に定める追試験許可願に掲げる欠席理由を客観的に証明する書類等を添えて、学務部学務課教養教育支援室に提出しなければならない。

欠席理由	欠席理由を証明する書類等
本人の傷病	医師の診断書
親族（三親等以内）の死亡	会葬礼状又は死亡診断書
就職活動 (ただし、採用面接（試験）の受験、採用面接（試験）の受験資格となる説明会への出席に限る。)	企業、官公庁等発行の証明書又は通知文（就職活動の採用面接（試験）又は採用面接（試験）の受験資格となる説明会の場所、日時及び内容が明記されていること。)
交通機関の遅延	交通機関の遅延証明書
災害（台風、水害、火災、地震等）	罹災証明書等災害の状況が把握できる書類
実習（ただし、教育実習、介護等体験、臨床実習、臨地実習、臨床実務実習、博物館実習及びインターンシップに限る。)	期間が明記されている協定書等の書類
課外活動における地区大会等を経た全国大会レベル以上の大会出場（ただし、選手又は団員として、競技や実演に出場する場合に限る。)	次に掲げる書類 1) 招聘機関等発行の証明書又は派遣依頼書 2) 当該大会等の内容が分かる書類
裁判員制度に基づく要請	裁判所からの要請等を証明する書類
交通事故	警察が発行した事故証明
その他公的機関からの要請	公的機関からの要請等を証明する書類等

2 前項により提出された書類により、真にやむを得ない事由により試験を受けることができなかったものであると教養教育院長が認めた場合に限り、1授業科目につき1回に限り追試験を許可する。

3 追試験を行う場合は、学生掲示等により当該学生に通知する。

(休学期間中の追試験)

第3条 休学期間中に実施された試験については、追試験の対象としない。

(追試験の実施)

第4条 追試験を行う場合、原則として第1・2タームにおいては第2タームの成績登録日前までに、第3・4タームにおいては第4タームの成績登録日前までに実施する。

2 追試験は原則として当該授業科目の担当教員が行う。

(その他)

第5条 この内規に定めるもののほか、教養教育の授業科目の追試験に必要な事項は、教養教育検討会議の意見を聴いて、教養教育院長が定める。

附 則

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

1 この内規は、令和8年4月1日から施行する。

2 令和7年度以前の入学者については、なお従前の例による。

富山大学教養教育再履修内規

平成30年2月9日制定

令和4年3月25日改正

令和8年2月6日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学教養教育履修規則（以下「規則」という。）第15条第2項の規定に基づき、教養教育の授業科目の再履修に関し必要な事項を定める。

(再履修の手続)

第2条 再履修を願い出る場合は、規則第10条第1項に規定する履修申告期間中に、所定の手続きをしなければならない。

2 再履修を願い出た後に、当該授業科目の再履修を取りやめるときは、規則第10条第3項に規定する期日までに再履修の取消しを登録しなければならない。

(再履修の成績評価)

第3条 再履修における成績評価は、規則第12条の定めるところによる。

(その他)

第4条 この内規に定めるもののほか、教養教育の授業科目の再履修に関し必要な事項は、教養教育検討会議の意見を聴いて教養教育院長が定める。

附 則

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和8年4月1日から施行する。

富山大学教養教育再試験内規

平成30年2月9日制定

令和4年3月25日改正

令和8年2月6日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学教養教育履修規則（以下「規則」という。）第16条第1項に規定する再試験の実施に当たり、同条第2項の規定に基づき、必要な事項を定める。

(再試験の手続)

第2条 再試験を願い出る場合は、別に定める再試験許可願に再試験が必要な理由等を証明する書類を添えて、所属する学部の長に提出しなければならない。

- 2 前項の願い出により所属する学部の長が再試験の実施が必要と認めた場合は、教養教育院長に再試験の実施を依頼する。
- 3 教養教育院長は、教養教育検討会議の意見を聴いて、再試験の実施の可否を決定する。
- 4 所属する学部の長は、再試験の実施の可否を当該学生に通知する。

(再試験の実施)

第3条 再試験は原則として1授業科目につき、1回に限り再試験を実施する。

- 2 再試験は、次ターム以降又は次年度の試験期日に実施する。
- 3 再試験は、当該授業科目の担当教員が実施する。

(再試験の成績評価)

第4条 再試験における成績評価は、可又は不可とする。

(その他)

第5条 この内規に定めるもののほか、再試験の実施に関し必要な事項は、教養教育検討会議の意見を聴いて、教養教育院長が定める。

附 則

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この内規は、令和8年4月1日から施行する。
- 2 令和7年度以前の入学者については、なお従前の例による。

Ⅸ 教養教育に関するQ&A

履修

Q 1 履修登録をするときに担当教員が異なる同じ科目を登録することはできますか。

A 1 同一名称科目は、サブタイトル、担当教員が異なる場合でも履修登録をすることはできません。また、一度修得した科目についても、履修登録をすることはできません。

Q 2 ヘルン・システムから履修登録をしようとしたのですが、エラーの表示が出て科目の登録ができません。

A 2 エラーにより科目の登録ができない場合は、エラーメッセージの指示に従い、登録内容を見直してください。それでも解決しない場合は、速やかに教養教育支援室に申し出てください。

Q 3 選択科目を履修しましたが単位を修得できませんでした。次学期や次年度に同じ科目を履修することはできますか。

A 3 単位を修得していない場合は同じ科目を再度履修することができます。

Q 4 履修登録で、「履修を指定する科目区分」にない科目を履修したいです。

A 4 「履修を指定する科目区分」にない科目区分の科目を履修したい場合は、追加登録期間中にヘルン・システムより履修登録をすることができます。ただし、追加登録は先着順となります。定員に達次第、登録を締め切りますので、注意してください。追加登録の対象となる科目は、ヘルン・システム及び掲示により通知します。

Q 5 英語、学術情報リテラシーⅠ・Ⅱ、健康・スポーツ実践のクラス指定科目の単位を落としてしまいました。再履修の手続きはどうしたらよいですか。

A 5 再履修の方法については、前期開講科目は3月下旬頃、後期開講科目は8月下旬頃にヘルン・システム掲示板や Moodle 等で通知します。掲示の確認を怠らないでください。

Q 6 「各学部・学科における卒業要件単位一覧」(P24～35 参照)にある単位数は、第1タームに全て修得しなければならないのですか。

A 6 第1タームではなく、1年間で修得するべき単位数です。教養教育科目での履修は、1年次で終了することが原則です。2年次以降は、専門科目の履修が中心となりますので、1年間で教養教育科目の単位がすべて修得できるように、余裕を持った履修計画を立ててください。

Q 7 集中講義の履修登録はいつできますか。

A 7 教養教育科目の集中講義の履修登録は、通常の履修登録期間と別の日程で行われます。登録期間の前に、ヘルン・システム掲示板や Moodle 等により登録期間・方法等について通知しますので、掲示の確認を怠らないでください。

英語・初修外国語

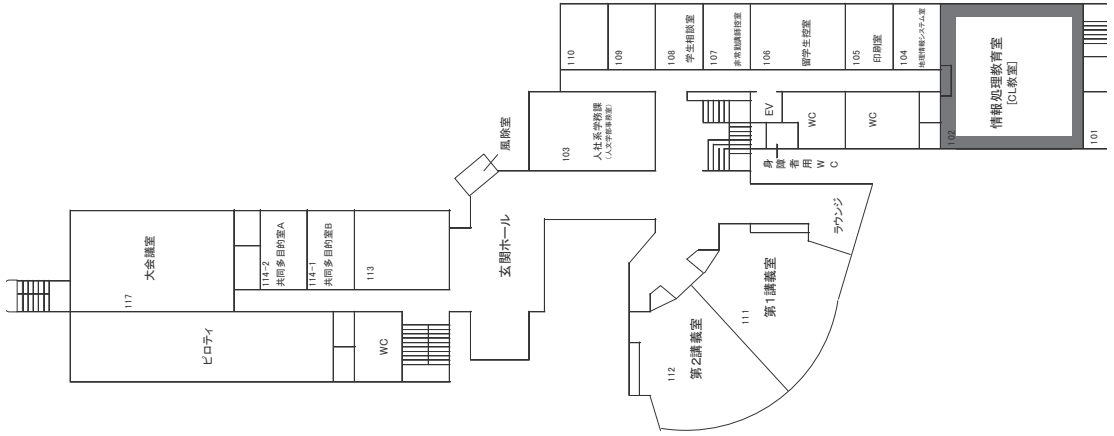
- Q 8 英語や初修外国語科目の単位認定を申請したいです。
- A 8 英検や TOEIC 等、大学以外の教育施設等における学修の認定は、学部により申請期間が定められています。申請を希望する学生は、所属する学部の教務担当窓口に応し出てください。詳しくは、P22～23を参照してください。
- Q 9 履修する言語を途中で変えることができますか。
- A 9 履修する言語を変更することもできますが、学部によって、同一言語で選択する必要があるため、所属する学部・学科の卒業要件を必ず確認してください。

その他

- Q 10 講義内容について質問があり、担当教員と連絡を取りたいです。
- A 10 ヘルプ・システムから学内向けシラバスを確認してください。担当教員のメールアドレス等、連絡先が記載されていることがあります。Web シラバス・とみだい iNfo からでは学内向けのシラバスを確認できないため、注意してください。連絡先が記載されていない場合は、オフィスアワーを確認し、担当教員の研究室を訪ねてください。Moodle のメッセージ機能からも連絡を取ることができます。
- 担当教員が非常勤の場合も、シラバスに連絡先やオフィスアワーが記載されていることがありますので、一度シラバスを確認してください。シラバスに連絡先の記載がなく、至急の場合は、教養教育支援室まで来てください。
- Q 11 学生証を忘れてしまい、カードリーダーにタッチすることができません。
- A 11 授業開始前に教養教育支援室で「出席確認票」を受け取り、必要事項を記入後、担当教員のサインまたは確認印を付した上で、原則として当日中に、教養教育支援室へ提出してください。なお、専門科目については、「出席確認票」による出席登録を行っていませんので、授業担当教員または所属学部の教務担当窓口に応し出てください。
- Q 12 誤って、異なる教室のカードリーダーに学生証をかざしてしまいました。
- A 12 履修登録されていない授業の教室で学生証をかざした場合、エラーとなり登録されません。誤った教室で学生証をかざした後でも、当該授業時間中に正しい教室でかざせば問題なく登録されます。
- Q 13 やむを得ず授業を欠席したいです。
- A 13 病気、忌引き等、やむを得ず授業を欠席する場合は、所属学部の教務担当窓口に応し出てください (P16～17「欠席等の取扱い」参照)。試験時に真にやむを得ない理由により欠席する場合は、追試験を受けることができます。詳しくは本ガイド P20「追試験」を参照してください。

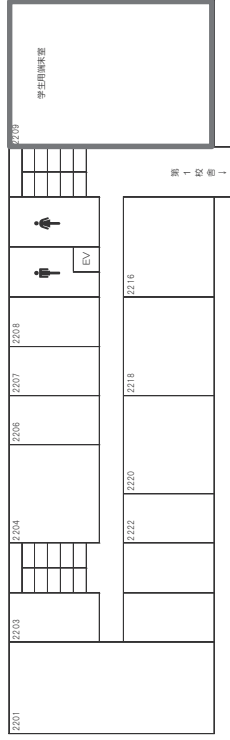
教養教育で使用する各学部棟の情報端末室配置図

◆人文学部棟 情報端末室位置



◆教育学部棟 情報端末室位置

教育学部第2棟 2階



XI 各種担当窓口一覧

主な事務	担当窓口	電話番号
教養教育	学務課教養教育支援室 (E-mail : info-kyoyo@adm.u-toyama.ac.jp)	076-445-6031
人文学部	人社系学務課	076-445-6138
教育学部		076-445-6259
経済学部		076-445-6517
理学部	理工系学務課	076-445-6547
工学部		076-445-6701
都市デザイン学部		076-445-6698
医学部	学務課教養教育支援室 杉谷キャンパス学務課	076-445-6031
薬学部		076-434-7126
芸術文化学部	学務課教養教育支援室 高岡キャンパス学務担当	076-445-6031 0766-25-9130

教養教育院ウェブサイト

<https://www.isc.u-toyama.ac.jp>



とみだい iNfo



(Android 版)



(iPhone 版)

令和 8 (2026) 年度

富山大学 教養教育ガイド

発行 富山大学 学務部学務課教養教育支援室
富山市五福 3190

令和8年度

履修登録における各学部・学科の「履修を指定する科目区分」、「選択できる科目数」

【第1～第2ターム】		
学部・学科	履修を指定する区分	選択できる科目数
人文学部	社会的変化への対応（選択）※1 分野別科目（自然科学） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 1科目 1科目 2科目 1科目
教育学部	社会的変化への対応（選択）※1 分野別科目（自然科学） 分野別科目（社会科学）※2 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 1科目 1科目 1科目 1科目
経済学部	社会的変化への対応（選択）※1 分野別科目（自然科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 1科目 2科目 2科目
理学部	社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 3科目 2科目 2科目
医学部医学科	社会的変化への対応（選択）※1 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 2科目 2科目 1科目
医学部看護学科	社会的変化への対応（選択） 分野別科目（自然科学） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 1科目 2科目 2科目 1科目
薬学部	社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 2科目 2科目 2科目
工学部	社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 2科目 2科目 2科目
芸術文化学部	社会的変化への対応（選択）※1 分野別科目（自然科学） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 1科目 2科目 2科目 2科目
都市デザイン学部	社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	1科目 2科目 2科目 2科目

※1「健康・スポーツ実践」を除く。

※2「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」を除く。

令和8年度

履修登録における各学部・学科の「履修を指定する科目区分」、「選択できる科目数」

【第3～第4ターム】		
学部・学科	履修を指定する区分	選択できる科目数
人文学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択）※ 分野別科目（自然科学） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 1科目 1科目 2科目 1科目 1科目
教育学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択）※ 分野別科目（自然科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 1科目 1科目 1科目 1科目
経済学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択）※ 分野別科目（自然科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 1科目 2科目 1科目 2科目
理学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 2科目 3科目 3科目 3科目
医学部医学科	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 2科目 1科目 1科目 1科目
医学部看護学科	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択）※ 分野別科目（自然科学） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 2科目 1科目 1科目 1科目 2科目
薬学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 1科目 2科目 1科目 1科目
工学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 2科目 2科目 1科目 2科目
芸術文化学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択） 分野別科目（自然科学） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 2科目 1科目 2科目 2科目 1科目
都市デザイン学部	情報化社会への対応（選択） 社会的変化への対応（選択） 分野別科目（社会科学） 分野別科目（人文科学） 統合科目	2科目 1科目 2科目 2科目 2科目

※「健康・スポーツ論」を除く。

令和8年度 第1ターム 教養教育科目履修計画表

[学籍番号： _____ 氏名： _____]

曜日 時限		月	火	水	木	金
		1限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数			
2限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
3限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
4限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
5限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
集中 講義						

履修計画作成手順

- ① クラス指定科目、必修科目の履修曜限を確認し、上記「履修計画表」に記入します。
- ② 「第1ターム教養教育授業時間割」を確認し、クラス指定科目、必修科目を履修しない曜限に開講している授業科目から履修を希望する選択科目を上記「履修計画表」に記入します。
- ③ 「履修を指定する科目区分・選択できる科目数 確認表」を使用し、履修を希望する選択科目について、「㉠履修登録する科目」と「㉡追加登録で登録する科目」を決定します。
- ④ 「㉠履修登録する科目」は初回の履修登録期間に登録します。抽選結果発表後、追加履修登録期間に「㉡追加登録で登録する科目」と落選分を補う科目を登録します。(追加登録期間では、「履修を指定する科目区分・選択できる科目数」にかかわらず、履修登録をすることが可能です。)
- ⑤ 集中講義の履修登録は、後日掲示にてお知らせします。

令和8年度 第2ターム 教養教育科目履修計画表

[学籍番号： _____ 氏名： _____]

時限		曜日				
		月	火	水	木	金
1限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
2限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
3限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
4限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
5限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
集中 講義						

履修計画作成手順

- ① クラス指定科目，必修科目の履修曜限を確認し，上記「履修計画表」に記入します。
- ② 「第1ターム教養教育授業時間割」を確認し，クラス指定科目，必修科目を履修しない曜限に開講している授業科目から履修を希望する選択科目を上記「履修計画表」に記入します。
- ③ 「履修を指定する科目区分・選択できる科目数 確認表」を使用し，履修を希望する選択科目について，「①履修登録する科目」と「②追加登録で登録する科目」を決定します。
- ④ 「①履修登録する科目」は初回の履修登録期間に登録します。抽選結果発表後，追加履修登録期間に「②追加登録で登録する科目」と落選分を補う科目に登録します。（追加登録期間では、「履修を指定する科目区分・選択できる科目数」にかかわらず、履修登録をすることが可能です。）
- ⑤ 集中講義の履修登録は，後日掲示にてお知らせします。

令和8年度 第3ターム 教養教育科目履修計画表

[学籍番号： _____ 氏名： _____]

時限		曜日				
		月	火	水	木	金
1限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
2限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
3限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
4限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
5限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
集中 講義						

履修計画作成手順

- ① クラス指定科目，必修科目の履修曜限を確認し，上記「履修計画表」に記入します。
- ② 「第1ターム教養教育授業時間割」を確認し，クラス指定科目，必修科目を履修しない曜限に開講している授業科目から履修を希望する選択科目を上記「履修計画表」に記入します。
- ③ 「履修を指定する科目区分・選択できる科目数 確認表」を使用し，履修を希望する選択科目について，「④履修登録する科目」と「⑤追加登録で登録する科目」を決定します。
- ④ 「④履修登録する科目」は初回の履修登録期間に登録します。抽選結果発表後，追加履修登録期間に「⑤追加登録で登録する科目」と落選分を補う科目を登録します。（追加登録期間では、「履修を指定する科目区分・選択できる科目数」にかかわらず，履修登録をすることが可能です。）
- ⑤ 集中講義の履修登録は，後日掲示にてお知らせします。

令和8年度 第4ターム 教養教育科目履修計画表

[学籍番号： _____ 氏名： _____]

時限		曜日				
		月	火	水	木	金
1限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
2限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
3限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
4限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
5限	時間割コード 授業科目名 (サブタイトル) 授業担当者名 科目区分・単位数					
集中 講義						

履修計画作成手順

- ① クラス指定科目，必修科目の履修曜限を確認し，上記「履修計画表」に記入します。
- ② 「第1ターム教養教育授業時間割」を確認し，クラス指定科目，必修科目を履修しない曜限に開講している授業科目から履修を希望する選択科目を上記「履修計画表」に記入します。
- ③ 「履修を指定する科目区分・選択できる科目数 確認表」を使用し，履修を希望する選択科目について，「①履修登録する科目」と「②追加登録で登録する科目」を決定します。
- ④ 「①履修登録する科目」は初回の履修登録期間に登録します。抽選結果発表後，追加履修登録期間に「②追加登録で登録する科目」と落選分を補う科目に登録します。（追加登録期間では、「履修を指定する科目区分・選択できる科目数」にかかわらず，履修登録をすることが可能です。）
- ⑤ 集中講義の履修登録は，後日掲示にてお知らせします。

【第1～第2ターム】履修を指定する科目区分・選択できる科目数 確認表

人文学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する科目区分	選択できる科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択) ※	1 科目		
分野別科目 (自然科学)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	1 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	1 科目		

※ 「健康・スポーツ実践」を除く。

教育学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する科目区分	選択できる科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択) ※1	1 科目		
分野別科目 (自然科学)	1 科目		
分野別科目 (社会科学) ※2	1 科目		
分野別科目 (人文科学)	1 科目		
統合科目	1 科目		

※1 「健康・スポーツ実践」を除く。

※2 「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」を除く。

経済学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択) ※	1 科目		
分野別科目 (自然科学)	1 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	2 科目		

※「健康・スポーツ実践」を除く。

理学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	3 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	2 科目		

医学部医学科

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択) ※	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	1 科目		

※「健康・スポーツ実践」を除く。

医学部看護学科

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択)	1 科目		
分野別科目 (自然科学)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	1 科目		

薬学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	2 科目		

工学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	2 科目		

芸術文化学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択) ※	1 科目		
分野別科目 (自然科学)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	2 科目		

※「健康・スポーツ実践」を除く。

都市デザイン学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
社会的変化への対応 (選択)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	2 科目		

【第3～第4ターム】履修を指定する科目区分・選択できる科目数 確認表

人文学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する科目区分	選択できる科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2科目		
社会的変化への対応 (選択) ※	1科目		
分野別科目 (自然科学)	1科目		
分野別科目 (社会科学)	2科目		
分野別科目 (人文科学)	1科目		
統合科目	1科目		

※「健康・スポーツ論」を除く。

教育学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する科目区分	選択できる科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2科目		
社会的変化への対応 (選択) ※	1科目		
分野別科目 (自然科学)	1科目		
分野別科目 (人文科学)	1科目		
統合科目	1科目		

※「健康・スポーツ論」を除く。

経済学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択) ※	1 科目		
分野別科目 (自然科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	1 科目		
統合科目	2 科目		

※「健康・スポーツ論」を除く。

理学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択)	2 科目		
分野別科目 (社会科学)	3 科目		
分野別科目 (人文科学)	3 科目		
統合科目	3 科目		

医学部医学科

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択)	2 科目		
分野別科目 (社会科学)	1 科目		
分野別科目 (人文科学)	1 科目		
統合科目	1 科目		

医学部看護学科

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択) ※	2 科目		
分野別科目 (自然科学)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	1 科目		
分野別科目 (人文科学)	1 科目		
統合科目	2 科目		

※「健康・スポーツ論」を除く。

薬学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	1 科目		
統合科目	1 科目		

工学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択)	2 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	1 科目		
統合科目	2 科目		

芸術文化学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択)	2 科目		
分野別科目 (自然科学)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	1 科目		

都市デザイン学部

①履修登録する科目			② 追加履修で登録する科目
履修を指定する 科目区分	選択できる 科目数	履修登録する科目名 (サブタイトル)	履修登録する科目名 (サブタイトル)
情報化社会への対応 (選択)	2 科目		
社会的変化への対応 (選択)	1 科目		
分野別科目 (社会科学)	2 科目		
分野別科目 (人文科学)	2 科目		
統合科目	2 科目		

所属

学籍番号

氏名



教養教育院ウェブサイト
<https://www.isc.u-toyama.ac.jp/>



とみだいiNfo



Android版



iPhone版